

“Population Distribution and Migration in Thailand” (タイにおける人口分布と人口移動)Dr. Surasak Siripaibulsin
(チュラロンコン大学助教授)

6. 9 「現代韓国家族と伝統的制度」Dr. 崔弘基 (CHOE, Hong-Kee)
(ソウル大学名誉教授)

資料の刊行

(1994年3月～6月)

<資料題名(発行年月日)>

<担当者>

「調査研究報告資料」

○第8号(1994. 3. 1)

第10回出生動向基本調査(結婚と出産に関する全国調査)
-第II報告書- 独身青年層の結婚観と子供観

阿高 中渡 小金 三
藤橋 野邊 島 子 田
重英 吉 隆 房
誠郷 子 利 宏 一 美

○人口問題研究所年報 平成5年度(1994. 5)

崔弘基ソウル大学名誉教授特別講演会：「韓国の現代家族と伝統的制度」

ソウル大学名誉教授(家族社会学)で韓国家族学会前会長の崔弘基(CHOE, Hong-Kee)先生が比較家族史学会でのご報告「韓国戸籍制度の発達」のために来日され、それに先立つ1994年6月9日(木)の午前に当研究所において「韓国の現代家族と伝統的制度」というテーマで講演を賜った。午後には松本誠一助教授のお世話で東洋大学アジア・アフリカ文化研究所でも講演をされた。崔先生のご著書『韓国戸籍制度史研究』(ソウル大学出版部、1975年)は、わが国の歴史人口学者や家族史学者によっても先駆的業績としてしばしば引用されている。また、崔先生は社会調査に基づく韓国現代家族の実証研究の分野でも多くの業績を上げてこられ、ご講演には二つの分野での長年の研究成果のエッセンスが含まれており、非常に興味深いものであった。

当研究所の講演では、まず儒教的家族制度に基づく伝統的家族について説明され、次に1960年代以降の家族変動について人口学的要因にも触れつつ、人口統計にも基づきながら非常にヴィヴィッドな話をされた。日本と比べて韓国では女子の4年制大学への進学率が高く、結婚後の就業継続率も高く、フェミニズムや個人主義の影響も強いことから夫婦関係がより対等なものとなっており、女性が内部変革の触媒となっているとのことであった。また、祖先祭祀に関する子供の価値の変化とともに、教育費増大や有配偶女子就業率上昇に伴う子供のコストの上昇により出生率が低下しているとのことであった。昨年は家族法が改正され、均分相続制が導入されたとのお話であったが、これは子供の価値をさらに変化させるはずなので、近い将来、韓国の出生率は日本より(そして西欧諸国より)低くなる可能性が高いという印象をもった。そうなるとすれば、内外で韓国人口の研究が再び脚光を浴びるのではないかと感じた。

(小島 宏記)